

平成24年度

# 第1回 まちづくり寺子屋

を開催しました

日時：平成24年11月23日（祝） 午後2時～午後4時

場所：茨木市立男女共生センター ローズWAM 5階 研修室

テーマ：「多世代が歩いて暮らせるまちづくり」  
～ユニバーサルデザインで見直す暮らし～

講師：同志社大学大学院 教授 関根 千佳 氏

関根先生は、多様な人に使いやすいICT機器のコンサルティングや、高齢化の進む地域の活性化支援を行うとともに多くの省庁・自治体・企業・学会などで委員を務められ、平成24年4月から同志社大学大学院で教鞭を執られています。

ICT (Information and Communication Technology)

= 「情報通信技術」



同志社大学大学院  
教授 関根 千佳 氏

講演概要は次のとおりです。

みなさんが利用されている駅の券売機で、高齢者が乗車券を購入する操作に手間取り、その後ろに待つ人の列ができている光景に出会ったことはありませんか。

必ずしも技術者だけの責任ではありませんが「誰にでも利用できるものか」を考慮して券売機を製作していれば、操作方法が分からない高齢者や外国からの訪問者でも、もっと簡単に利用できたと思います。

「もの」や「まち」をつくる技術者が気付かないことを、利用する側のみなさんが相手に伝えることにより気付きを与え、「利用しやすいもの」や「暮らしやすいまち」をつくることができれば、それがユニバーサルデザインにつながるのです。

以前、私は歩行時に杖を利用していた頃がありましたが、券売機で切符を買うときに杖を掛けるところがなかったため、杖掛けを設けるよう要望しました。その改良された箇所は杖だけではなく、雨天時には傘も掛けることができ、とても便利になったとみなさんに喜ばれるようになりました。

ある本のなかに「デザイン」とは、形を作ることだけではなく、これまで自分が常識だと思っていたことを疑い、壊し、新たに生み出すものと書かれていました。みなさんの住んでいるまちは、高齢者、子ども、外国人や左利きの方など多様な人に暮らしやすいまちになっているでしょうか。

身近なところでは、開封時に開け易く、間違っ  
て食品が落ちない工夫が施された容器など、  
誰にでも利用しやすいものを作ることもユニバ  
ーサルデザインと言えます。ほんの少しの配  
慮で人を悲しませないもの、できれば幸せにす  
るものがユニバーサルデザインです。

みなさんも一度、自分の常識を疑い、身の回  
りを観察してみてください。多様な人の視点に  
立てば、発見できることがたくさんあると思  
います。

21世紀の社会デザイン  
=ソーシャルイノベーションデザイン

デザイン=デ(壊す)+サイン(見えるもの)  
→ 一度、常識を疑ってみる

- 1、自分のまちは高齢化の進む日本や世界  
に対応できているのだろうか？
- 2、子どもや外国人、左利きなど多様な人  
に使えるものを私は選んでいるのだろうか？

→ソーシャルイノベーションデザイン  
UD=人を悲しませないまち・もの考える

Copyright © 2012 JICA

ユニバーサルデザインとは、年齢、性別、能  
力、体格などに関わらず、より多くの人  
が利用できることを最初から考慮し、「ま  
ち」、「もの」、「情報」、「サー  
ビス」などを作るという考え方と、そ  
れを作り出す過程(プロセス)のこと  
です。

バリアフリーとは、日本語訳では「障壁の  
除去」であり、今ある障壁を取り除くた  
めに改善、改修などを実施すること  
です。

整備後に障壁を除去するより、最初から  
多様性を考慮して作るユニバーサルデ  
ザインは、最終的にコストも安く、デ  
ザインも美しくなることが多いので  
す。

また、ユニバーサルデザインを取り入れ  
ると、いろいろな人にとって便利で暮  
らしやすいまちになり、たくさんの人  
が訪れるようになり、まちの活性化  
につながります。

UDがバリアフリーと異なる点

- デザインの最初から多様性を考慮する
  - ・ コストもかからず、デザインも美しい
- 高齢者・障害者だけでなく全ての人  
が対象
  - ・ 女性、子ども、外国からのお客様も  
一市場拡大
  - ・ 若い人にも当然使いやすい  
一満足度向上
- 行政や企業にとって負担でなく  
メリット
  - ・ いろいろな人にとって便利  
一町の活性化につながる
  - ・ 多様な人が使える  
一企業のブランド力、利益率向上

日本と世界の高齢化に対応する戦略

Copyright © 2012 JICA

日本は、2005年にイタリアを抜いて  
世界一の高齢国家になりました。世界  
的に見ても2015年には高齢者が  
子どもの数を上回ると予測されてい  
ます。パンフレットなどを作成する  
ときは、コントラストのはっきりした  
文字を使うなど、読む人が高齢者  
であることを考慮する必要があります。



世界的な高齢化進展の中で、日本は  
先進事例として高齢者にとって暮ら  
しやすいまちをつくり、利用しやす  
いものを作って行く必要がありますが、  
必ずこのノウハウは

世界的に役立つ時が来ると思われます。

日本語で加齢学、老年学または高齢社会学と言われる学問「ジェロントロジー」があります。欧米では100年以上前からある学問領域ですが、日本の大学では桜美林大学と東京大学に専門課程があるだけです。

高齢社会を明るく楽しく過ごすための学問で、私は「華麗学！」と呼んでいます。定年後20年間は、まだ身体も元気な方が多いので、社会の一員として貢献し活躍していただきたいと思っています。



ユニバーサルデザインは「美しいこと」、「格好良いこと」も大切な要素だと思います。JR京都駅の視覚障がい者誘導ブロックは、桃色と黄色が交互に配置され、黄色のみで整備されるよりも、その場所のデザインに馴染み、美しく感じられます。

また、電動アシスト自転車は、元は高齢者のニーズを把握して開発されたのですが、若者が格好良く乗るテレビコマーシャルが放映されると、若い女性たちにも人気が広がるようになりました。たくさんの荷物を積み自転車で坂道を登ることが、女性には大変だったのです。誰にとっても利用しやすく、格好良い電動アシスト自転車は、ユニバーサルデザインです。

三重県のある温泉旅館では、フロアに視覚障がい者誘導ブロックのかわりに、凹凸の少ない材料を使用しているため、車椅子がその上を通行しても、ガタガタと揺れません。方向を示す材質が周囲の材質と異なるため、触覚に優れた視覚障がい者には、杖や足の裏の感覚で方向が分かります。さらに、廊下の隅に配置した木の色合いがはっきりしているため、高齢者や弱視の方にも方向が確認しやすくなっています。また、旅館の受付横には、多目的に使えるカウンターが備え付けであり、車椅子利用者にも利用しやすい高さとなっていて、これも多様な人に配慮したユニバーサルデザインです。



あるコンビニエンスストアチェーン店が設置している現金自動預け払い機(ATM)は、画面の見やすさに配慮して製作されています。音声での案内も可能であり、視覚障がい者や高齢者にも好評です。また、コンビニエンスストアは常時、店員がいるため防犯上のことも考慮し、預金をすべて移し替えた方もいるということです。

みなさんも「こうありたい」と願う将来のために課題を見つけ、解決する方法を考えてみてください。そして、良いところは良いと褒めることが大切です。市民は、行政や企業の良き助言者となるように苦情だけにとどまらず、茨木を良くする意見提案を行ってください。

講演後に質疑応答が行われました。

【質問】

ユニバーサルデザインの意味は、説明を聞かないと分かりません。日本語での良い言葉はありますか？

【答え】

文部科学省は、ユニバーサルデザインを「万人向け設計」と日本語訳しています。コンピュータ、システム、ボランティアなどもともと日本にはない概念の言葉を日本語に適切に訳すことは難しいですね。みなさんも何か良い言葉を考えてみてください。

【質問】

ユニバーサルデザインは、どのようにすれば理解が広がりますか？

【答え】

市民一人一人が自分の問題だと認識することが大切です。

【質問】

個々のデザインも大事ですが、高齢者や子どもが暮らしやすいまち全体のデザインが必要なのではないですか。

【答え】

ユニバーサルデザインは社会のデザインです。点から線へ、線から面へといろいろな空間をデザインすると、結果としてまちは良くなると思います。市民が自分で作っていくものという、コミュニティのデザインでもあります。

茨木を良くするために一緒に  
取り組んでいきましょう。

